

存在の耐えられない軽さ



——ラブ・ストーリー——

THE UNBEARABLE LIGHTNESS OF BEING

ダニエル・テイ・ルイス/ジュリエット・ピノシュ/レナ・オリン

製作：ソウル・ゼインツ

監督：フィリップ・カウフマン

原作：ミラン・クンデラ

脚本：ジャン＝クロード・カリエール/フィリップ・カウフマン

作曲：レオシュ・ヤナーチェク(サントラ盤：ビクターレコード)

撮影監督：スヴェン・ニクヴィスト/プロダクション・デザイン：ピーエール・ギュフロワ

アメリカ映画/カラー作品

配給：松竹富士株式会社

 DOLBY STEREO
IN SELECTED THEATRES

——トマシユ、あなた 快楽を求めるだけ？
それともすべての女性の秘密を知りたいの？ ベッドでの声を聴きたいの？

——知りたいのは……些細なことさ。

存在の耐えられない、軽さ

THE UNBEARABLE LIGHTNESS OF BEING

1988年の上半期、各国で最も話題をさらった待望の作品の登場。

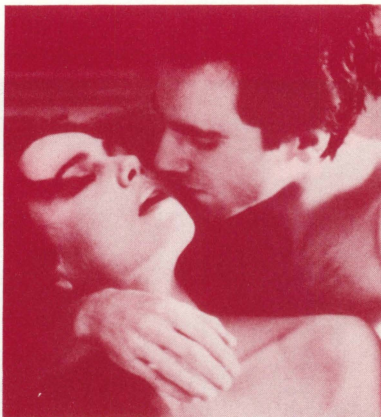
ニューヨークでは2月に公開されたが、半年を過ぎた現在なお続映中、パリ、ローマ、ロンドン、コペンハーゲン、ストックホルム、オスロ、ヘルシンキ、アムステルダムなどヨーロッパの大都市でもこぞってロングランを続けている。

1968年のいわゆる“ブラハの春”の時期からソ連などワルシャワ条約機構軍20万人による武力介入の時代のブラハを背景に、男と女の、美しく哀しく、ときにエロチックでときにユーモラスな、みごたえたっぷりのラブ・ストーリーがつつまれている。その行間からは人間の存在についての考察や、政治と人間との関わりの問題もつたわってくる。

世界的ベストセラー小説を、「アマデウス」の製作者、「ライトスタッフ」の監督、「眺めのいい部屋」のニュースターで。

チェコスロバキアを代表する作家でありながら、ソ連の介入後、現在にいたるまでフランスに亡命しているミラン・クンデラが84年に発表したベストセラー小説が原作。「アマデウス」で作品賞など8つ、「カッコーの巣の上で」でも作品賞はじめ5個のアカデミー賞を獲得、アメリカで最も良心的なプロデューサーといわれるソウル・ゼインツが製作、「ライトスタッフ」「S F ボディ・スナッチャー」のフィリップ・カウフマンが演出にあたった。

主演は「マイ・ビューティフル・ランドレット」「眺めのいい部屋」で実力発揮、ローレンス・オリビエの再来と呼び声高いイギリスの新進スター、ダニエル・デイ・ルイス。



相手役には「汚れた血」で注目され、飾りけのない美しさと確かな演技力で評価の高いフランスのジュリエット・ピノシュが抜擢されている。また主人公の“エロチック・フレンド”にはイングマル・ベルイマンの秘蔵っ子であるスウェーデンの新人レナ・オリンが起用された。

この3人をめぐって、「ファニーとアレクサンデル」などベルイマン映画の重鎮である



スウェーデンのエルランド・ヨセフソン、「約束の土地」「愛と哀しみのボレロ」などで知られるポーランドのダニエル・オルブリフスキ、「ライトスタッフ」のジョンソン副大統領で強烈な印象を残したアメリカのドナルド・モファット、「強襲」(未)などに主演しているオランダのデレク・デ・リントと、国際的な顔ぶれが脇を固めている。

超一流のスタッフ陣。
そしてヤナー・チェクの音楽を
散りばめた贅沢さ。

ゼインツ、カウフマンという凝り屋で完全主義者たちの仕事らしく、スタッフも超一流だ。カウフマンとともに脚色にあたったのはルイス・ブニュエル作品をはじめ各国のすぐれた映画作家と組んでいるジャン＝クロード・カリエール。撮影はベルイマン作品「叫びとささやき」「ファニーとアレクサンデル」で2度オスカーを得たスヴェン・ニクヴィスト。さらに編集監修のウォルター・マーチも「地獄の黙示録」で、プロダクション・デザインのエドワード・ギューフロワも「テス」でオスカー獲得歴があり、衣装デザインのアン・ロスもブロードウェイの舞台と映画でいくつもの賞を受けている。

音楽は原作者の意向を生かしてチェコの生んだ作曲家レオシュ・ヤナー・チェク(1854～1928)の曲が中心になっている。使用されているのは「弦楽四重奏第1番(クロイツェル・ソナタ)」ほか。

撮影は当然のことながらチェコではできず、フランスのリヨンがブラハの街路に最も似たたたずまいを持っているということでロケされたほか、ノルウェー、スイスのジュネーブでもカメラが回された。

●アメリカ評

■リチャード・コリス——(タイム誌)
アメリカ映画に待ちに待ったエロティシズムとインテリジェンスを戻らせた。これこそ、本物のラブ・ストーリーだ。
■ジョン・パーズ——(ローリング・ストーン誌)
アメリカ映画界が描きえた、究極のセクシー・ムービー。
■ポーリン・ケール——(ニューヨーカー誌)
この映画の印象は、もう一度見たかった夢が見られたという感じ。

●ヨーロッパ評

■ZDFテレビ——(ドイツ)
まるで名作映画5本分まとめあげたような美しさとやさしさ。超一級作品。
■モルゲンブラデット紙——(ノルウェー)
アメリカ映画史における、センセーション！
■スタンダード紙——(イギリス)
この作品で、アメリカ映画は初めて真のヨーロッパの芸術の香りを持ちえた。

ダニエル・デイ・ルイス

ジュリエット・ピノシュ/レナ・オリン
製作：ソウル・ゼインツ
監督：フィリップ・カウフマン
原作：ミラン・クンデラ
脚本：ジャン＝クロード・カリエール
フィリップ・カウフマン
作曲：レオシュ・ヤナー・チェク(サントラ盤：ビクターレコード)
撮影監督：スヴェン・ニクヴィスト
プロダクション・デザイン：エドワード・ギューフロワ
アメリカ映画/カラー作品 
配給：松竹富士株式会社 

今秋 《待望の》
ロードショー!

*ダニエル・デイ・ルイスの特製ポスター付特別鑑賞券 好評発売中!

丸の内ルーブル
(214)7761

パンテオン
(407)7219

ミラノ座
(202)1189

新宿東映パラ
(351)3061

池袋東急
(971)2727

丸の内・シネマ
0427(22)2255

千葉劇場
0472(27)4591

ロビンソンシアター
0487(63)1634